

短歌 令和四年阿南市春季短歌誌上大会 選

特選

ミルク色に盛り上がりつつ葉牡丹の春呼ぶ雨に
冷えびえ濡るる 金本ひろみ

特選

世界初DMVが走り出す阿波と土佐との光る海
辺を 浅海 弥生

特選

九十も半ばの重き誕生日息子の遺影よ去り難く
佇つ 勢井 恒子

特選

避難所に少女の歌う鎮魂のウクライナ国歌澄み
透りたり 井上 京子

特選

午後の陽が役所のロビーあたためてピアノほほ
えみ弾き手を待てり 宮崎眞由美

特選

CTの結果届くに一週間「ガンではないよ」二度
言う医師は 青木 弘子

特選

人よりも月・花・風・水が良いと言う兼好法師
に寄り添う弥生 森岡 政子

俳句 阿南市俳句連合会 選

夏立つや暮れても止まぬ玉遊び

百歳を目指す^{おきな}媼の白い靴

影ひとつ山門くぐる夏つばめ

夏つばめ地の危機無縁や宙をきる

立葵上まで咲いて風もなく

潮見表貼られ停車場^{はなとべら}花海桐

魚市場氷の倉庫てふがあり

樹木医の肩にばらりと桜の実

終活の進まぬままや花南天

天空の城壁登る^{かたつむし}蝸牛

河内 音

久米 千草

青木 慧

谷中喜代子

古川北斗星

浜田百合子

末岐 美子

末広なおむ

岡本 隆子

中分 明美

川柳 阿南川柳会 選

よい夢をもつと見たいと二度寝する

亡妻待つと信じて墓参いそいそと

本人と思ひ喋っている電話

沙羅双樹一枚添えて閉じた文

母に似た心を持った孫である

口笛はもう吹けません総入れ歯

曲がり出す芯に添え木をしてなごむ

原 公美子

福良 充雄

持木 寿栄

渡邊 浪漫

二階千代美

西田 修身

野村 敏子

一般応募

激流が悲鳴待つてる川下り

父の日に荷物至福の顔で解く

新鮮と安さが好きな無人店

秋川 和子

島尾美津子

武田 敏子

漢詩 阿南漢詩研究会・青松吟社 選

郊里の水車

汲水淙淙洗耳時

不休滾滾下清池

老翁沾圃就歸路

童子難離盍好奇

山川 治

水を汲み 淙淙耳を洗う時

休まず 滾滾と清池に下る^{くだ}

老翁は圃を^{はら}沾し 帰路に就く

童子は離れ難く 好奇^{あふ}盍る

夏季五輪追懷

当年盛夏暑如烘

諸國超人力戰窮

勝者歡呼多暗淚

黃金燦燦耀蒼穹

谷口田鶴子

当年の盛夏 暑烘^やが如く

諸國の超人 力戰の窮^{きわみ}

勝者の歡呼 暗淚多く

黃金燦燦 蒼穹に耀やく

舞踏の会に題す

一門結集會場華

持滿紅妝舞袖斜

熱演躍如搖錦帳

暫離難踏醉名花

増喜 泰典

一門結集 會場華^{はな}やかに

満^{まん}を持^じす紅妝 舞袖斜めなり

熱演躍如 錦帳を揺^ゆるがし

暫く難踏を離れて 名花に酔う

